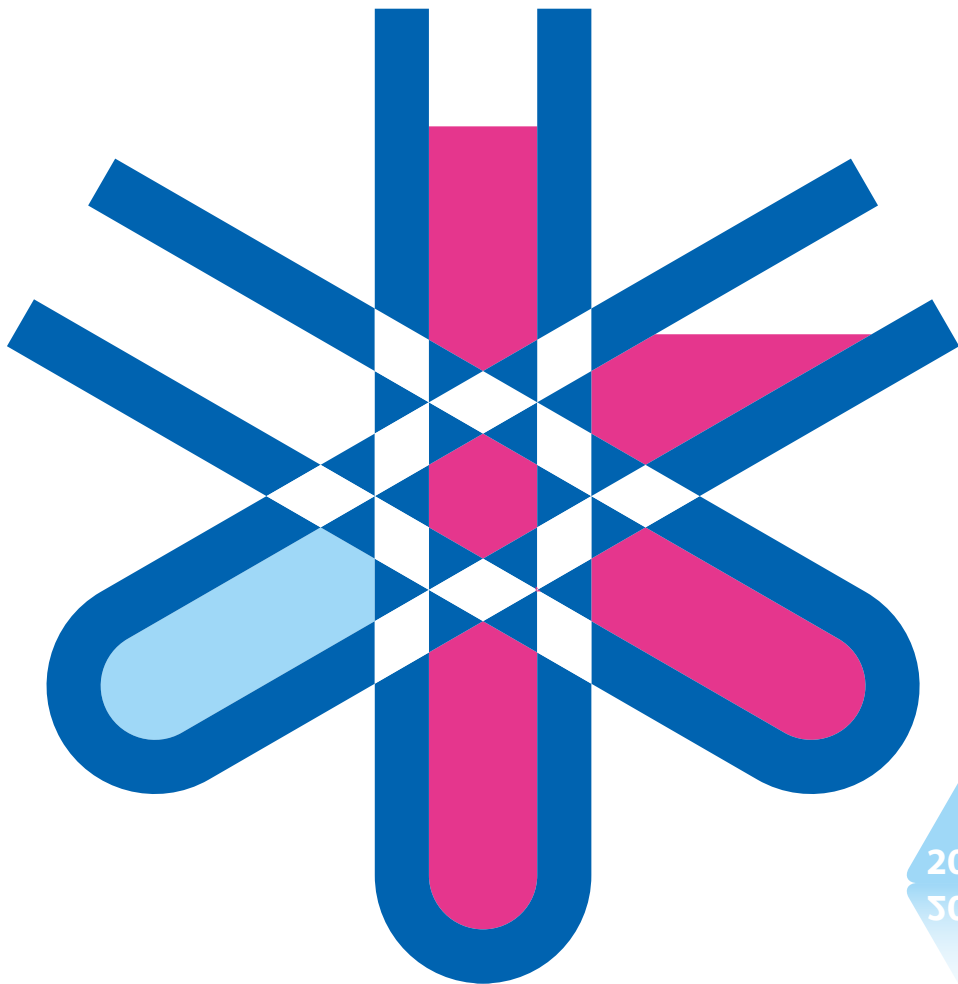


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和8年5月号 目次

【検査結果】

食品の苦情品等検査結果（令和7年度）	1
食品中の放射性物質検査結果（令和7年度）	5

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和8年4月）	6
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和8年4月）	7
----------------------------	---


* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。


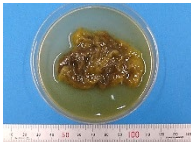
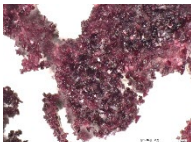

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

食品の苦情品等検査結果（令和7年度）

令和7年度、各区福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品で、原因究明のために検査依頼があったのは、13件21検体(参考品を含む)でした。相談の内容は様々ですが、異物混入が多数を占めました。主な検査結果は次のとおりです。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
親子煮中の異物 	給食の親子煮中から、針金様の異物が発見された。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 磁性結果	全長約18mm、断面0.48mm×0.3mm、重さ19.3mgの所々が湾曲した針状異物。 金属光沢を有し、全体的にスジ状模様が認められた。両先端は三角形に尖っており、所々に無色透明の膜状物質が乖離している様子が観察された。 表面は滑らかであり、各所で膜状物質が乖離している様子が観察された。 膜状物質が乖離した部分からは亜鉛、炭素及び鉄が検出され、膜状物質からは炭素、塩素及び酸素が検出された。 磁性が認められた。 亜鉛、炭素、鉄を成分とする金属片と推定された。
給食中の異物 	給食喫食中に、口腔内から硬質異物が発見された。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析結果	大きさ7.0×1.8mm、3.2×1.6mm、3.4×1.3mm、2.2×1.2mm、総重量18mgの乳白色骨片様異物4個。長辺の両辺縁がやや丸まっていた。水に入れると沈んだ。 表面は滑らかで微細なスジが認められ、反対面の一部には赤褐色部分及び微細な気泡状構造が観察された。 表面に多孔質構造が観察された。 炭素、酸素、カルシウム及びリン等が検出された。 骨と類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 骨の欠片と推定された。
しらす中の稚魚の鑑定 	購入したしらす干し中にフグ様の稚魚が発見された。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析結果	大きさ約22×5mm、重さ100mgのフグに似た稚魚1個体。 腹部の膨張、小棘の密生及びクチバシ状歯が確認された。 シロサバフグの遺伝子配列と一致した。 稚魚はシロサバフグであると推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ピザ中の異物 	購入したピザを喫食中に硬質異物が認められた。ピザ裏面全体に黒色異物が付着していた。	外観 マイクロスコープ 元素分析 赤外分光分析 鉄分定性 燃焼性 結果	大きさ約20cm×9～14cmにカットされた三角形のピザ5ピースが搬入された。それぞれのピザの裏側には、大きさ約1mm～10mmの薄い不定形の黒色異物が多数付着していた。黒色異物を取り出し、乾燥させてから力を加えると、容易に破砕された。全体的に細かな凹凸構造が観察された。炭素及び酸素が検出された。植物油と類似の赤外吸収スペクトルが認められた。陰性(鉄のチオシアン酸反応)黒色異物を加熱すると炭水化物燃焼時と同様の臭気を呈し、白色に灰化した。炭水化物や植物油などの有機物が炭化したものと推定された。
飲用水中の異物 	水道水中に黒色及び褐色の微細異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 結果	大きさ1mm未満～約3mmの赤褐色異物が多数確認された。水中では沈殿していた。大きさは不均一で、多数の赤褐色異物のほか、白色と黒色粒子も観察された。表面は内面と異なる組成の物質で覆われている様子が観察された。表面からは主成分として炭素、酸素、鉄が検出され、微量成分としてマグネシウム、アルミニウム、ケイ素等が検出された。裂け目から内部の組成を確認したところ、表面よりも高い比率で鉄が検出された。鉄さび(酸化鉄)を主成分とする異物と推定された。
肉じゃが中の異物 	給食の肉じゃが喫食中に硬質異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ13×5.5mm、重さ36mg、厚さ1mmの乳白色薄片状の硬質異物。所々に赤茶色の部分が観察された。水、エタノールに入れると沈んだ。ハサミで切断すると割れて層状に剥がれた。一方向に走る筋状の亀裂及び多数の孔が観察された。反対面は滑らかで、凹凸が観察された。辺縁部には半透明の層状構造が観察された。多孔質の構造が観察された。層状に剥がれた面は細かなスジと網目状の構造が観察された。炭素、酸素、窒素、カルシウム及びリンが検出された。骨と類似の赤外吸収スペクトルが認められた。骨の欠片と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
給食中の異物 	給食のカレーピラフの具に金属異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 磁性結果	大きさ約8mm×1mm、重さ6.7mgの銀色金属様異物。 金属光沢を有し、全体的にスジ状模様が認められた。反対面には皺模様が見られ、その中に黄色の付着物や黒ずんでいる箇所が見られた。 スジ状模様部は全体的に平滑であったが、皺模様部では表面がひび割れた状の構造を有していた。 主成分としてアルミニウムが検出され、炭素、酸素、鉄等も検出された。 磁性は認められなかった。 アルミニウムを主成分とする金属片と推定された。
マンゴー果汁入り飲料中の異物 	開封後、室内にて保管・飲用していた当該品について、開封5日後にコップへ注いだ際、黒色の毛髪様異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 結果	重さ約14g、暗い黄緑色～緑褐色で流動性があり、形状が一定しない、ぬめりを伴った半固形異物。非常にやわらかいが、膜のようなものに包まれていた。 白色または褐色の菌糸及び胞子のう様構造が多数観察された。 菌糸及び胞子のう様構造が観察された。毛は認められなかった。 カビのかたまりと推定された。
ブルーベリージュースの瓶の付着物 	飲用後のブルーベリージュース瓶の内壁に、塗装様物質の付着及び一部に剥離が確認された。	外観 マイクロスコープ 元素分析 赤外分光分析 pHによる変化 結果	瓶の内壁に暗紫色の付着物を広範囲に認めた。付着物は、瓶に水を入れて振ると容易に剥がれ、粒子状となった。 取り出した付着物を拡大観察した結果、暗紫色の結晶が多数確認された。 主成分として炭素及び酸素が検出され、微量成分として窒素が検出された。 ブルーベリーと類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 50%エタノール水で付着物を溶解した液について、pH変化に伴う呈色反応を観察した。酸性条件下では赤色、アルカリ性条件下では緑色を呈し、ブルーベリーに含まれるアントシアニン色素と同様の挙動を示した。 ブルーベリーの成分と推定された。
チョコレート菓子中の異物 	食品に乳白色の虫様異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	長さ約7mm、乳白色の半固形異物。 異物は液状化しており、固形物は確認できなかった。断面観察により、異物と色調が類似する下層原料からの流出が示唆された。 異物と断面から採取した類似の色調部分を分析した結果、いずれも糖類と類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 内部から流出してきた糖類と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ウィンナー中の異物 	ウィンナー喫食時に、硬質異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ約6mm×5mm、厚み1.3mm、重さ21.5mgの白色プラスチック様異物。水に入れると浮いた。 表面は全体的に平滑であり、場所によって滑らかな弧を描いている箇所や削り取られたような跡が観察された。 破断面と思われる箇所にはスジ状の空隙が観察された。 主成分として炭素が検出され、部分的に酸素が検出された。 ポリスチレンと類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 ポリスチレンの破片と推定された。
カレー中の異物 	給食のカレー(配膳前)をおたまで混ぜたところ、異物が発見された。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	大きさ約6×1mm、重さ1mgの青色樹脂様異物。水に入れると浮いた。 異物は青色で、部分的に色の濃淡があり、黒色の小さな付着物が点在していた。表面は不規則な凹凸であるが、比較的平滑な箇所も認められた。端部にはギザギザした破断面が観察された。 ポリプロピレンと類似の赤外吸収スペクトルが認められた。 ポリプロピレン樹脂の破片と推定された。
寿司中の異物 	寿司ネタにごく小さな黒色物質が付着していた。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 結果	大きさ約1×1mm、黒色の微小物質。 全体は褐色～黒色を呈し、不規則な形状をしていた。所々に白色や紫色の部分も確認された。 表面には多数の細かい凹凸が確認されたが、菌糸などのカビに特徴的な構造は認められなかった。また、対照品の海苔の細胞構造と一致しなかった。 主成分として炭素及び酸素が検出され、少量の塩素、ナトリウム、窒素、硫黄等も検出された。 窒素や硫黄を含む有機物と推定された。

【 検査研究課 理化学(添加物含有物)担当 】

食品中の放射性物質検査結果(令和7年度)

市内流通食品の安全・安心を確保するため、平成23年7月から食品中の放射性物質検査を行っています。

令和7年度に当所で行った食品の検査結果は表1～表3のとおりです。115検体中3検体から放射性セシウム(Cs)が検出されましたが、基準値*は超えませんでした。

* 放射性 Cs の基準値(Cs-134 と Cs-137 の合計)

飲料水:10Bq/kg、乳児用食品:50Bq/kg、牛乳:50Bq/kg、一般食品:100Bq/kg
ミネラルウォーター類・原料に茶を含む清涼飲料水・飲用に供する茶:10Bq/kg
(厚生労働省告示第129号、130号 平成24年3月15日)

表1 検体の種類及び数並びに放射性Cs検出検体数

検体の種類	説明	検査検体数	放射性Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	9	1
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	60	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	4	0
市内量販店流通食品	横浜市内で流通している食品	11	0
小学校給食	米、麦及び牛乳	31	2
合計		115	3

表2 検体の内訳

検体の種類	品名([]内は検体数)
市内産農産物	かき[1]、かぶ[1]、きゅうり[1]、こまつな[1]、しいたけ(生)[1]、たけのこ[1]、日本なし[1]、にんじん[1]、ばれいしょ[1]
市内産水産物	イボダイ[7]、カマス[1]、カワハギ[1]、クロダイ[3]、コショウダイ[2]、シログチ[9]、スズキ[3]、タチウオ[13]、ホウボウ[12]、ムシガレイ[5]、メイタガレイ[4]
市内産畜産物	原乳[4]
市内量販店流通食品	甘酒[1]、牛乳[2]、粉ミルク[2]、日本酒[1]、ミネラルウォーター[1]、ヨーグルト[1]、リンゴジュース[1]、レトルト食品(乳幼児用)[2]
小学校給食	牛乳[14]、米(精米)[11]、米(胚芽米)[3]、麦[3]

表3 放射性Cs検出検体の検査結果

品名	検体数	検出値(Bq/kg)			
		Cs-134	Cs-137	Cs合計	
市内産農産物	しいたけ(生)	1	不検出(<0.752)	6.28	6.3
小学校給食	米(胚芽米)	1	不検出(<0.671)	0.760	0.76
	米(胚芽米)	1	不検出(<0.732)	3.05	3.1

不検出の()内数値は、検出限界値

【 検査研究課 理化学(残留物汚染物) 担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和8年4月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和8年4月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和8年4月に追加・更新した主な記事は、1件でした。

掲載月日	内容
4月15日	感染症に気をつけよう（4月号）

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryodashboard.city.yokohama.lg.jp/>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryofukushi/kenko-iryoeiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

ソーシャルメディア（インスタグラム）

https://www.instagram.com/eiken_yokohama_official

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年4月)

委員会開催日(2026年4月23日)時点のデータになります。

《今月のトピックス》

- 麻しんは国内感染例の報告が続いています。
- 梅毒は20～40歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く報告されています。引き続き注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2026年3月23日～2026年4月19日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
エムポックス	4件	水痘(入院例に限る)	3件
レジオネラ症	3件	梅毒	34件
アメーバ赤痢	4件	百日咳	9件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件	麻しん	2件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件		

1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～50歳代で、O血清群はO157が1件、O26が1件、O不明が2件です。無症状病原体保有者は1件です。感染経路等は接触感染と推定される報告が1件、経口感染と推定される報告が1件、不明が2件です。
2. **E型肝炎**:70歳代で、感染経路等は経口感染と推定されます。
3. **A型肝炎**:40歳代(ワクチン接種歴無)で、感染経路等は性的接触感染と推定されます。
4. **エムポックス**:30歳代～40歳代で、感染経路等は4件とも接触感染と推定されます。
5. **レジオネラ症**:50歳代～90歳代で、3件とも病型は肺炎型で、感染経路等は水系感染と推定される報告が2件、不明が1件です。
6. **アメーバ赤痢**:60歳代～70歳代で、病型は3件が腸管アメーバ症、1件が腸管と腸管外アメーバ症です。感染経路等は性的接触と推定されるのが2件、不明が2件です。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代が2件で、感染経路等は医療器具関連感染と推定される報告が1件、その他と推定される報告が1件です。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳代～90歳代で、血清型はA群が2件、G群が2件です。感染経路等は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、創傷感染と推定される報告が2件、不明が1件です。
9. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～60歳代で、病型は無症状病原体保有者が5件です。感染経路等は性的接触(同性間)と推定される報告が4件、不明が1件です。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代～80歳代(ワクチン接種歴不明2件)で、感染経路等は不明の報告が2件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳代～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明2件)で、感染経路等は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、その他と推定される報告が1件です。
12. **水痘(入院例に限る)**:10歳代～80歳代(ワクチン接種歴2回1件、不明2件)で、病型はすべて臨床診断例です。感染経路等は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、不明の報告が2件です。
13. **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒I期16件、早期顕症梅毒II期9件、無症状病原体保有者が9件です。感染経路等は性的接触による感染と推定される報告が30件(異性間22件、同性間2件、詳細不明6件)、不明の報告が4件です。
14. **百日咳**:10歳未満～50歳代(ワクチン接種歴不明9件)で、感染経路等は不明の報告が9件です。
15. **麻しん**:20歳代～30歳代(ワクチン接種歴無2件)で、検査診断例が2件です。感染経路等は不明の報告が2件です。

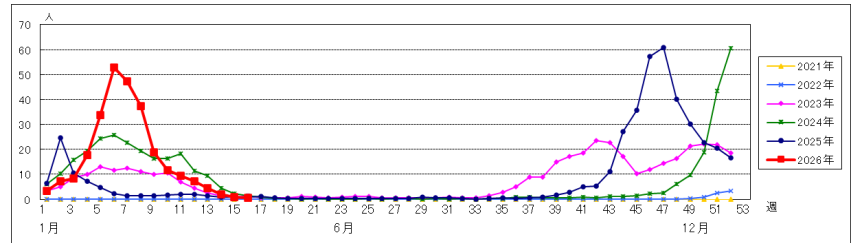
◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2026年第13週	3月23日～3月29日
第14週	3月30日～4月5日
第15週	4月6日～4月12日
第16週	4月13日～4月19日

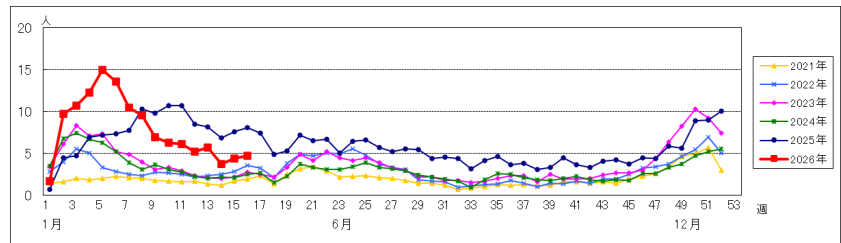
1 インフルエンザ

2025年第43週(10月20日～10月26日)に流行注意報(10.00)、第45週(11月3日～11月9日)に流行警報(30.00)の発令基準を超えました。その後増加が続き、第47週(11月17日～11月23日)に60.78で1回目のピークを迎えました。その後は減少傾向でしたが、年明け以降再び増加に転じ、第4週に流行注意報、第5週に流行警報の基準を再び超えました。第6週に52.73で2回目のピークを迎え、以降減少しています。第16週は0.57です。



2 感染性胃腸炎

2025年第46週(11月10日～11月16日)以降増加傾向が続き、2026年第5週に14.98でピークを迎えました。以降は減少傾向で、第16週は4.70です。



3 性感染症(2026年3月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:25件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:20件	女性:14件
尖圭コンジローマ	男性:15件	女性:6件	淋菌感染症	男性:18件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.25	0.00

5 基幹定点月報(2026年3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	21件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2026年第13週～第16週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点110件でした。

5月1日現在、表に示した各種ウイルスの総数94件(うち分離総数24件)が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2026年第13週～第16週)

診断名	検出・分離ウイルス	総数	うち分離数
ARI	インフルエンザウイルス B (ヒトA系統)	25	24
	インフルエンザウイルス A (型未同定)	1	
	ライノウイルス	31	
	ライノウイルス またはエンテロウイルス	2	
	ヒトメタニューモウイルス	14	
	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	10	
	RS ウイルス	5	
	パラインフルエンザウイルス 1 型	2	
	パラインフルエンザウイルス 3 型	2	
	パラインフルエンザウイルス 4 型	1	
	アデノウイルス 5 型	1	
	合 計	94	24

【 検査研究課 微生物(ウイルス医動物)担当 】

〈細菌検査〉

2026年第13週～第16週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症3件(*Escherichia albertii* 含む)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症4件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件、腸管出血性大腸菌感染症疑い1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からブルセラ症疑い1件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎8件、感染性胃腸炎1件、「ARI 定点」から3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2026年第13週～第16週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症		3	O103:H2 VT1	(1)
				O66:H- VT2	(1)
				<i>Escherichia albertii</i> VT2	(1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		4	<i>Klebsiella oxytoca</i>	(1)
				<i>Klebsiella pneumoniae</i>	(1)
				<i>Escherichia coli</i>	(1)
				<i>Enterobacter cloacae</i> complex	(1)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		4	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	(1)	
			G群溶血性レンサ球菌	(3)	
侵襲性肺炎球菌感染症		1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 24型	(1)	
侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能	(1)	
腸管出血性大腸菌感染症疑い		1	<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	(1)	

分離同定		項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所		ブルセラ症疑い	1	血清	抗ブルセラ抗体 陰性 (1)

小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	(6)
				A群溶血性レンサ球菌 T1	(1)
				A群溶血性レンサ球菌 T6	(1)
	直腸ぬぐい液	感染性胃腸炎	1	<i>Campylobacter jejuni</i>	(1)

ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	3	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	陽性 (1)
				溶血性レンサ球菌 培養	陰性 (2)
				肺炎マイコプラズマ遺伝子	陰性 (3)
				百日咳菌遺伝子	陰性 (3)
				百日咳菌培養	陰性 (3)

【 検査研究課 微生物(細菌)担当 】